

第4回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会 （車いす使用者の部）

■平成22年4月29日（祝・木） ■ユニバー記念陸上競技場（補助競技場）

報告：古岡芳弘

活動指導員数：27名

澄みきった晴天になりました。しかし、風が強く体感温度は、やや低いようです。

車いす使用者の方々が兵庫県内各地から続々と集まってきました。兵庫県障害者スポーツ協会の新・旧スタッフの方々及びひょうご障害者スポーツ指導者協議会有志の方々により、大会準備が着々と進められています。

10時30分からの開会式には、300人の選手団が整列しています。指導者協議会員は、総務、競技審判及び補助員として、大会を支えます。各参加団体のプラカードは、啓明学院陸上部と親和女子大学の皆さんがボランティアスタッフをしています。

東野レオさん（加古川養護学校）の選手宣誓に、「選手の皆さんの今日一日の健闘を祈ります」と植月氏より激励がかえされました。

続いて、各競技開始前に、珍しいデモンストレーションがありました。それは、萩原、吉野、村田3人の車いすレーサーと福島さん他2人の中・高校生による「1500m」競走です。各選手の記録紹介とレース展開について、増田ひょうご指導者協議会長の解説がタイムリーにアナウンスされました。

いよいよ、競技開始です。指導者協議会のメンバー達は、スラローム、ビーンバッグ投げ、ソフトボール投げ、フライングディスク、50m競走、100m競走の選手誘導、審判及び審判補助で大忙しです。任務の合間には、選手の活躍に声援も送ってられました。



50m走では、スタート後すぐにこんなに差がついてしまいました。また、100m走に出場された障害者スポーツ指導員でもある田邊選手にお話を聞くと、「これまでの記録を塗り替えられて良かった。しかし、もう2回出場しているから、記録が良くても全国大会には行けないけど…」と残念そうでした。

電動車いすを指先で操る方にとっては、風が冷たく調整が大変だったと思いますが、

みなさん、参加種目に、一生懸命、楽しそうに競技をされていました。表彰を受ける方も、惜しくももらえなかった人も、素晴らしい一日を過ごせたようです。おつかれさま。